

駅ナカの横浜野菜

ハマで働く女性に好評

みなとみらい線

神奈川県横浜駅から中区の元町・中華街駅まで、横浜の繁華街を走る「みなとみらい線」（横浜高速鉄道）。そのなかでも、日本大通公園駅は、周辺に県庁や横浜税関などがある官庁街の駅だ。その日本大通公園駅で6月から開催されている、横浜産食材を使用したお弁当と神奈川県内の朝採れ野菜を販売する「みなとみらい線 d e m a ルシエ」が好評だ。

「みなとみらい線 d e m a ルシエ」は、横浜高速鉄道と仕出し弁当屋「横浜・うお時」（横浜市中区）が地域活性化を指すこと、連携して実現した企画。同駅改札外コンコースの「三塔広場」で開催している。昼時には、

売する野菜は、うお時と取引のある生産者やJ A、市場から仕入れたもので、トマトやキュウリ、ナス、コマツナ、ブルーベリーなど季節の青果物を扱う。

うお時の三代目の渡邊清高さんは、「多くの方に、横浜や神奈川県産の野菜がこんなに身近にあることを知って、興味をもっていただきたい。また、昼時の弁当は全て500円のワンコイン。参加する飲食店のシェフが店の特色を出しながら、お弁当で店舗をPRすれば、お

客さんが店に足を運ぶぎっかけにもなる」と意気込む。うお時では昨年度の横浜市環境創造局・農業振興課のサポートを受け、横浜を

中心とした神奈川県内の農業や野菜のポータルサイトを「ヨコハマサイ」を開設。ここでは、横浜の地産地消の啓蒙活動を行っており、渡

邊さんは同サイトの編集長も努めている。「横浜は今後、もっと面白くなっていくエリア。横浜や神奈川県産の野菜で地域全体を盛り上

か」と計画しているという。



販売時間は、お弁当が平日11時～14時で、ユキは週替わり。野菜の販売は月曜・水曜・金曜の16時～20時で、パピルやスイスチャードなど珍しい野菜も人気があるという。

「行ってたら」と語る。マルシエはオープンして1か月ほどだが野菜は毎回完売。リピーターも多いので徐々に取扱量を増やし、現在はオープン当初より1.5倍ほど増やした。昼時の弁当も人気があり、12時過ぎに完売してしまつこともあるという。

みなとみらい線は、今年3月から私鉄の相互乗入れで休日の乗客が4割近く増えた。埼玉や東京など遠方からの乗客を考慮し、駅構内でもできるだけ横浜らしさを感じてもらいたいという。マルシエを企画したという。今後は、野菜以外の販売店を増やしたり、日本大通公園駅以外でも展開できないかと計画しているという。